



「みずむし」って、どんな病気なの

白癬という、かびの仲間の菌で起こる病気

「みずむし」というのは、足の指の間や足の裏などに、かゆいぶつぶつができたり、皮がむけたりする病気です。そして、「みずむし」は、白癬というかびの仲間の菌が、足の指の間や足の裏などについて、起こる病気です。

この菌は、皮膚の表面の、角質というたんぱく質の中に生えますから、足の裏のように、厚くてたんぱく質がたくさんある皮膚には、特によくすみつきます。毛やつめも角質のかたまりですから、そこに、この菌がうつると、病気になってしまうのです。

白癬というかびの仲間の菌は、皮膚や毛などについて、病気を起こしますが、病気の起こる部分によって、しらくも（頭）、ぜにたむし（皮膚）、いんきんたむし（また）、みずむし（足、手、つめ）に分けられます。

かびの仲間は、体のどこにもある

かびは、人間の体によく生え、赤ちゃんから老人まで、年齢に関係なく生えます。

「かび」といっても、おもちなどの食べ物につくものとはちがいで、人間の体に生えるかびで、最も多いのが、白癬という病気のもとになるかびです。

体がかびで病気にならないためには、皮膚を、常に清潔にしておく必要があります。

また、「みずむし」など、白癬という、かびの仲間の菌で起こる病気は、人にうつる病気ですので、かかってしまったら、ほかの人にめいわくがかからないように、早くなおすようにしましょう。（監修・保志 宏）

